



Gâi aios&Dankie



ナミビア通信 No.3 2017年 12月7日 青年海外協力隊 松原小夏

北陵中学校の皆さん、また青年海外協力隊の活動に関心を持ってくださる皆さん、こんにちは。お元気ですか。日本は「師走」。お疲れ様です！また、活動の一部を紹介させてください！お時間あれば、お茶でも飲みながら読んでください(^^)中学生は、そんな時間ないか・・・

<情報の授業について>



点検して、どれが動か、何がだめか明示。でも直すお金ないよね・・・(^^);

鍵を設置して、教具をしまっておけるようにしました。

7月に初めて学校を訪れた時、正直言うと、パソコン室の雑然とした様子に驚きました。職員も予算も足りなから、整備する余裕がないのだと思います。19台のPCのうち、電源がつくものは6台。床や棚の中にはゴミ、砂。掃除と、整理整頓から始め、スクリーンの動くものとCPUの動くものを繋ぎ直して、使える台数を増やすことしかできませんでした。部品を買ってもらい、11台までにはできましたが、35人以上の学級に対して、ワードやエクセルを教えるには、環境がまだまだ不十分です。

パソコンを数人で共有し、ワード

で、自分の名前や趣味をタイピングしたり、時間割表を描いたりしました。その他には、新聞を読んで要約することをしてみたけれど・・・イマイチでした。もっと時間をうまく使って、情報の授業も改善したい。新聞など、文章を「読む」機会を増やすことが必要な気がします。

<体育ついて>



今期は、行事で授業がつぶれたことが多く、簡単なリレー、ドッチボール、ポートボールを数回ずつ行ったのみ。日本から2個、バレーボール持ってきてよかった・・・

バレーコート二面分くらいのフィールド。5年生35人学級にはちょっと狭い。



子どもたちは、体育を楽しみにしていて、静かになるのに時間はかかっても、話は聞いてくれます。必要な規律は保ちながら、新鮮な運動経験をさせられたらいいです。

成績について。どの教科も、ナミビア統一のシラバスにある評価規準にそって点数をつけるのですが、体育は、評価規準が9個もあって(テストやプロジェクトという調べ学習でしか測れないものがある)、成績処理が煩雑です。この辺りも、日本と比較しつつ、それぞれのいいところから学びたいところです。

☆その他 文化紹介☆

<多民族、多言語、多文化>

ナミビアの主要民族は、およそ12あり、言語も同じくらいあるそうです。私の任地、ウサコスに住む大部分の人は「ダマラ」族です。ダマラの固有の言語は、コエコエ語、通称ダマラです。舌を鳴らすクリック音が特徴です。その他、アフリカーンス(オランダ系移民を先祖にもつ人たちの言語。)を母語とする人もいます。職場では、英語、アフリカーンス、ダマラが聞かれます。

英語は、1990年に独立してから政策的に公用語になったもので、教育においては、弊害もあるようです。特に低学年の児童にとっては、母語と教室で使う言語が違うので、読み書がとても難しいと考えられます。しかも、母語であるコエコエ語は教科として習わないのです。教科として設定されているのは、英語とアフリカーンスです。だから、ダマラは話せても書けない子が多いようです。英語も、話すのには慣れているけれど、本に触れる機会が少ないので、「読む」経験が増やしていく、現在使われているイギリス製の教科書を読んで理解するには、苦勞する子もいます。算数や情報の授業においても、英単語の習得という視点ももって、教材を考えようと思います。母語を大切にしてほしいけれど、唯一の共通語である英語で教えるしかない…言葉と教育の密接な関係について考えさせられます。

<Prize Giving(成績優秀者 表彰会)>

3学期の途中に、Prize Giving Ceremony という各教科の成績上位者を表彰する会がありました。町のホールを借りて、保護者や来賓の方も迎えて大々的に行うものです。日本では、成績の序列をあからさまに話すことはないのですが、最初は少し驚きましたが、表彰された子たちはとてもうれしそうでした。

0年生の卒業式も兼ねています



学年ごと、教科ごとに表彰されます



卒業を控えた7年生の合唱も。



<やりたいこと、やり切れていないこと…>

今年は、主に算数の授業に力を入れました。でも、まだまだ、やるべきだと思ったことが全然できていません。もう一度気を引き締めて、がんばります。それでは、また…お元気で(^-^)/ お読みいただきありがとうございました!

放課後のクラブで、学校の裏山に登りました。

